

Ⅲ 基礎科目（共通科目）の履修方法

共通科目は、総合科目、体育、外国語（英語、初修外国語、日本語）、情報（講義、実習、上級）、国語及び芸術の科目からなっており、科目ごとの開設の目的は以下のとおりです。それぞれの履修方法については、次ページ以降に記載します。

開設の目的

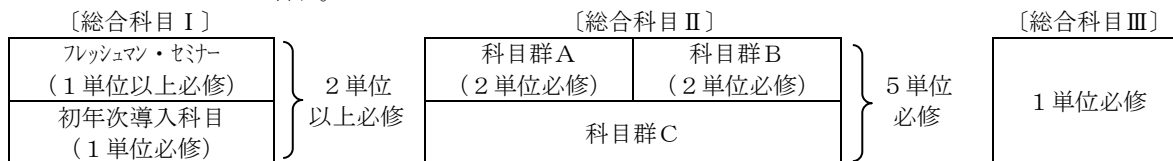
総合科目	<p>[総合科目Ⅰ] 初年次学生が新しい学習環境に適応して、自律的にキャリア形成を始めることを助けます。</p> <p>[総合科目Ⅱ] 広い視野から学問の在り方や人間の生き方を考えるとともに、自分の専攻する分野とは異なる学問分野を経験して生涯学習の第一歩を踏み出すことを目的とします。</p> <p>[総合科目Ⅲ] 1・2年次における基礎、専門基礎教育及び2・3年次における専門教育をベースに、社会で活躍する際に必要となる幅広い視野と学際的なものの見方、国際性及び社会適合性を涵養します。</p>
体 育	<p>スポーツ科学を基にした多様なスポーツ実践を通して、生涯に向けたスポーツ技術の習得、健康・体力を維持増進するための知識と実践力、社会人としてのフェアな考え方、他者理解とコミュニケーションについて学ぶことにより、『健やかな身体、豊かな心、たくましい精神』を養う科目です。</p>
外 国 語	<p>学術研究の場で外国語が駆使できるようになることを目指して、学術的教養とそれに相応しい言語技能を養います。また、複数の言語を学ぶことで言語センスを磨き、あわせて文化、社会、価値観の多様性を知り、複眼的な視点からの思考力を身につけます。</p> <p>なお、外国人留学生及び帰国生徒等（外国において相当の期間、中等教育を受けた学生）に対し、大学の講義・演習に必要な力を実践的に学ぶための日本語の科目を開設しています。</p>
情 報	<p>コンピュータに関する基本概念、その応用と限界、社会におけるコンピュータの位置づけを理解し、インターネット社会におけるルールとモラルを講義と実習を通して身につける科目です。</p>
国 語	<p>国際化した知識基盤社会を生き抜くためには、日本語について正しい知識を修得し、多様な情報を基に自己の意思を適確に表現し伝達する能力が求められます。このような日本語運用能力を向上させ、責任ある行動のとれる人材を育成することを目指します。</p>
芸 術	<p>芸術に関する幅広い知識を学び、美的感性をみがき、表現する喜びを体験する科目です。総合大学の学生にふさわしい豊かでバランス感覚のある人間性を育みます。</p>

1. 総合科目

(1) 総合科目の概要

総合科目は、以下のとおり総合科目Ⅰ、総合科目Ⅱ、総合科目Ⅲに分けて開設しています。

- ① 総合科目Ⅰ……大学初年次においてスムーズに大学における学習と生活に適応し、学習目標・動機を獲得して自律的な自己を確立するための科目。
- ② 総合科目Ⅱ……広い視野から学問のあり方や人間の生き方を考える態度・習慣を身につけるための科目。自分の専攻する分野とは異なる学問分野を経験して大学レベルにおける生涯学習の第一歩を踏み出すための科目を含む。
- ③ 総合科目Ⅲ……1・2年次における基礎、専門基礎教育及び2・3年次における専門教育をベースに、社会で活躍する際に必要となる幅広い視野と学際的なものの見方、国際性及び社会適合性を涵養するための科目。



(2) 総合科目Ⅰ

- ① 総合科目Ⅰは、フレッシュマン・セミナーを1単位以上、初年次導入科目を1単位、あわせて2単位以上を必ず修得しなければなりません。
- ② 各学群・学類における総合科目Ⅰの修得すべき単位数及びその標準履修年次は、次のとおりです。

【総合科目Ⅰの修得すべき単位数及び標準履修年次】

学 群 ・ 学 類		標準履修年次	必修		選択又は自由
			フレッシュマン・セミナー	初年次導入科目	
			単位数	単位数	
人文・文化学群	人 文 学 類	1	1.5	1	○
	比 較 文 化 学 類	1	1.5	1	○
	日 本 語 ・ 日 本 文 化 学 類	1	1.5	1	—
社会・国際学群	社 会 学 類	1	1	1	○
	国 際 総 合 学 類	1	1	1	○
人間学群	教 育 学 類	1	1	1※	○
	心 理 学 類	1	1	1	○
	障 害 科 学 類	1	1	1	○
生命環境学群	生 物 学 類	1	1	1	○
	生 物 資 源 学 類	1	1	1	○
	地 球 学 類	1	1	1	○
理工学群	数 学 類	1	1	1※	○
	物 理 学 類	1	1	1※	○
	化 学 類	1	1	1※	○
	応 用 理 工 学 類	1	1	1	○
	工 学 シ ス テ ム 学 類	1	1	1	○
情報学群	社 会 工 学 類	1	1	1	○
	情 報 科 学 類	1	1	1	○
	情 報 メ デ ィ ア 創 成 学 類	1	1	1	—
医学群	知 識 情 報 ・ 図 書 館 学 類	1	1	1※	○
	医 学 類	1	1	1	—
	看 護 学 類	1	1	1	—
医学群	医 療 科 学 類	1	1	1	—
	体 育 専 門 学 群	1	1	1	○
芸 術 専 門 学 群		1	1	1	○

(備考) 1. ※は、所属学類で指定する科目を履修することを示す。

教育学類：教育研究入門，数学類：クラスセミナー，

物理学類：クラスセミナー，化学類：クラスセミナー，知識情報・図書館学類：情報リテラシ実習

2. 「卒業生によるオムニバス講座（社会人としていかに生きるか）」は標準履修年次を1～4年次とする。

3. ○は、卒業要件の選択又は自由科目としても履修できることを示す。
4. 一は、科目を履修することは可能である（修得単位は成績証明書に記載される）が、修得した単位を卒業要件の選択科目又は自由科目の単位としてはカウントできないことを示す。
5. 卒業要件として使用できるか否かについては、必ず各学群・学類の履修細則を確認すること。
6. Japan-Expert プログラムの学生は、上記に加え Japan-Expert フレッシュマン・セミナー1単位が必修です。

(3) 総合科目Ⅱ

① 総合科目Ⅱは、下記3つの科目群から構成されています。

- 1) 科目群A：物質、数理、生命、環境に関わる総合科目（概ね理系の主題テーマ）
- 2) 科目群B：精神、文化、社会、歴史に関わる総合科目（概ね文系の主題テーマ）
- 3) 科目群C：上記二つの科目群にまたがる総合科目

それぞれの授業科目には、100番台（高校での既習科目によらず履修できる科目）・200番台（高校で特定の科目を履修していることや、関連分野の100番台の総合科目を履修していることを履修要件とする科目）の履修レベルがあり、『開設授業科目一覧』や『総合科目シラバス』に示されていますので、履修する際の参考にしてください。

- ② 総合科目Ⅱは、科目群A・科目群Bからそれぞれ2単位を含む合計5単位以上を必ず修得しなければなりません。
- ③ 総合科目Ⅱは、原則として2年次までに履修してください。
- ④ 各学群・学類における総合科目Ⅱの修得すべき単位数の内訳及びその標準履修年次は、次のとおりです。

【総合科目Ⅱの修得すべき単位数及び標準履修年次】

学 群 ・ 学 類		標準履修年次	必修（計5単位）			選択又は自由
			科目群A 単位数	科目群B 単位数	科目群C 単位数	
人文・文化学群	人 文 学 類	1・2	2～3	2～3	0～1	○
	比 較 文 化 学 類	1・2	2～3	2～3	0～1	○
	日本語・日本文化学類	1・2	2～3	2～3	0～1	—
社会・国際学群	社 会 学 類	1・2	2～3	2～3	0～1	○
	国 際 総 合 学 類	1・2	2～3	2～3	0～1	○
人間学群	教 育 学 類	1・2	2～3	2～3	0～1	○
	心 理 学 類	1・2	2～3	2～3	0～1	○
	障 害 科 学 類	1・2	2～3	2～3	0～1	○
生命環境学群	生 物 学 類	1・2	2～3	2～3	0～1	○
	生 物 資 源 学 類	1・2	2～3	2～3	0～1	○
	地 球 学 類	1・2	2～3	2～3	0～1	○
理工学群	数 学 類	1・2	2～3	2～3	0～1	○
	物 理 学 類	1・2	2～3	2～3	0～1	○
	化 学 類	1・2	2～3	2～3	0～1	○
	応 用 理 工 学 類	1・2	2～3	2～3	0～1	○
	工学システム学類	1・2	2	2～3	0～1	○
	社 会 工 学 類	1・2	2～3	2～3	0～1	○
情報学群	情 報 科 学 類	1・2	2～3	2～3	0～1	○
	情報メディア創成学類	1・2	2～3	2～3	0～1	○
	知識情報・図書館学類	1・2	2～3	2～3	0～1	○
医学群	医 学 類	1・2	2～3	2～3	0～1	—
	看 護 学 類	1・2	2～3	2～3	0～1	○
	医 療 科 学 類	1・2	2～3	2～3	0～1	—
体 育 専 門 学 群		1・2	2～3	2～3	0～1	○
芸 術 専 門 学 群		1・2	2～3	2～3	0～1	○

(備考) 1. ○は、卒業要件の選択又は自由科目としても履修できることを示す。

2. 一は、科目を履修することは可能である（修得単位は成績証明書に記載される）が、修得した単位を卒業要件の選択科目又は自由科目の単位としてはカウントできないことを示す。

3. 卒業要件として使用できるか否かについては、必ず各学群・学類の履修細則を確認すること。

(4) 総合科目Ⅲ

- ① 総合科目Ⅲは、下記4つの科目群から構成されています。
- 1) 科目群D：物質、数理、生命、環境に関わる総合科目（総合科目Ⅱ科目群Aの発展科目）
 - 2) 科目群E：精神、文化、社会、歴史に関わる総合科目（総合科目Ⅱ科目群Bの発展科目）
 - 3) 科目群F：上記二つの科目群にまたがる総合科目（総合科目Ⅱ科目群Cの発展科目）
 - 4) 科目群G：汎用的能力に関わる総合科目（総合科目Ⅱ科目群Dの発展科目）
- ② 総合科目Ⅲは、科目群D、E、F、Gの内から1単位以上を必ず修得しなければなりません。
- ③ 総合科目Ⅲは、3年次又は4年次で履修してください（1・2年次の履修は不可）。
- ④ 各学群・学類における総合科目Ⅲの修得すべき単位数の内訳及びその標準履修年次は、次のとおりです。

【総合科目Ⅲの修得すべき単位数及び標準履修年次】

学 群 ・ 学 類		標準履修年次	必修（1単位）				選択又は自由
			科目群D 単位数	科目群E 単位数	科目群F 単位数	科目群G 単位数	
人文・文化学群	人 文 学 類	3・4	0～1	0～1	0～1	0～1	○
	比 較 文 化 学 類	3・4	0～1	0～1	0～1	0～1	○
	日本語・日本文化学類	3・4	0～1	0～1	0～1	0～1	—
社会・国際学群	社 会 学 類	3・4	0～1	0～1	0～1	0～1	○
	国 際 総 合 学 類	3・4	0～1	0～1	0～1	0～1	○
人間学群	教 育 学 類	3・4	0～1	0～1	0～1	0～1	○
	心 理 学 類	3・4	0～1	0～1	0～1	0～1	○
	障 害 科 学 類	3・4	0～1	0～1	0～1	0～1	○
生命環境学群	生 物 学 類	3・4	0～1	0～1	0～1	0～1	○
	生 物 資 源 学 類	3・4	0～1	0～1	0～1	0～1	○
	地 球 学 類	3・4	0～1	0～1	0～1	0～1	○
理工学群	数 学 類	3・4	0～1	0～1	0～1	0～1	○
	物 理 学 類	3・4	0～1	0～1	0～1	0～1	○
	化 学 類	3・4	0～1	0～1	0～1	0～1	○
	応 用 理 工 学 類	3・4	0～1	0～1	0～1	0～1	○
	工学システム学類	3・4	0～1	0～1	0～1	0～1	○
	社 会 工 学 類	3・4	0～1	0～1	0～1	0～1	○
情報学群	情 報 科 学 類	3・4	0～1	0～1	0～1	0～1	○
	情報メディア創成学類	3・4	0～1	0～1	0～1	0～1	○
	知識情報・図書館学類	3・4	0～1	0～1	0～1	0～1	○
医学群	医 学 類	3・4	0～1	0～1	0～1	0～1	—
	看 護 学 類	3・4	0～1	0～1	0～1	0～1	—
	医 療 科 学 類	3・4	0～1	0～1	0～1	0～1	—
体 育 専 門 学 群		3・4	0～1	0～1	0～1	0～1	○
芸 術 専 門 学 群		3・4	0～1	0～1	0～1	0～1	○

- (備考) 1. ○は、卒業要件の選択又は自由科目としても履修できることを示す。
2. —は、科目を履修することは可能である（修得単位は成績証明書に記載される）が、修得した単位を卒業要件の選択科目又は自由科目の単位としてはカウントできないことを示す。
3. 卒業要件として使用できるか否かについては、必ず各学群・学類の履修細則を確認すること。

(5) 開設曜日時限

総合科目Ⅰ（フレッシュマン・セミナーおよび学類を指定して開設する科目を除く）は、月曜日1，2，5，6時限，水曜日6時限，木曜日6時限，集中講義で開設されています。総合科目Ⅱは、月曜日1時限又は2時限に開設されています。総合科目Ⅲは、固定時間割ではありません。それぞれの学群・学類で行われるガイダンス等に従って選択し、履修してください。ただし、木曜日6時限に開設される総合科目Ⅰ「卒業生によるオムニバス講座（社会人としていかに生きるか）」については、別途掲示により担当講師、授業内容等を周知します。

(6) 履修上の注意事項

① 総合科目における受講者調整について

大型授業科目を解消し、教育の充実を図るため、それぞれの科目について受講者数の上限が定められています。

なお、履修申請者数が受入上限数を超過した場合には、受講者の調整が行われます。受講者の調整に当たっては、総合科目Ⅱは1年次生、総合科目Ⅲは3年次生が優先されますが、受入上限数を大幅に超えた科目については、1年次生や3年次生でも調整される場合があります。受講調整結果については、掲示により周知します。

② 総合科目の教室変更について

大人数を収容できる教室の数が限られているため、受講者数に応じて教室を変更する場合があります。『開設授業科目一覧』や『総合科目シラバス』に載っている教室は、あくまで仮教室です。教室変更については、掲示により周知しますので、必ず掲示板を確認してください。

③ 総合科目に関する詳細については『総合科目シラバス』（別冊）を参照してください。

2. 体育

(1) 開設科目区分

体育は、以下のとおり必修科目及び自由科目に区分して開設しています。

区分	卒業要件	開設形態	内 容
必修科目	必修	通年実技	各年次生を対象に通年で1単位ずつ履修する科目
		集中実技	秋学期入学1年次生、3・4年次生を対象に学内又は学外で一定期間に集中して行う0.5～1単位の科目
自由科目	選択又は自由	通年実技	年間の時間割により、1年間を通して開設される1単位の科目
		集中実技	全学学生を対象に学内又は学外で一定期間に集中して行う0.5～1単位の科目
		講義	開設時限を定めて開設する学期完結又は通年で行う講義による科目
		演習	開設時限を定めて開設する学期完結又は通年で行う演習による科目

(備考) 自由科目……全学年の学生を対象に、さまざまなタイプの開設科目の中から自由に選択して履修する科目

(2) 修得単位数及び履修年次

「体育」は、必修科目として2～3単位修得しなければなりません。なお、1～2年次の2単位については、当該学年の通年実技を履修します。各学群・学類における修得すべき単位数及び履修年次は、次のとおりです。

学 群 ・ 学 類		必 修		選択又は自由
		単位数	履修年次	
人文・文化学群	人 文 学 類	2	1～2	○
	比 較 文 化 学 類	2	1～2	○
	日 本 語 ・ 日 本 文 化 学 類	3	1～3	○
社会・国際学群	社 会 学 類	2	1～2	○
	国 際 総 合 学 類	3	1～3	○
人間学群	教 育 学 類	2	1～2	○
	心 理 学 類	2	1～2	○
	障 害 科 学 類	2	1～2	○
生命環境学群	生 物 学 類	2	1～2	○
	生 物 資 源 学 類	3	1～3	○
	地 球 学 類	2	1～2	○
理工学群	数 学 学 類	2	1～2	○
	物 理 学 類	2	1～2	○
	化 学 類	2	1～2	○
	応 用 理 工 学 類	3	1～3	○
	工 学 シ ス テ ム 学 類	3	1～3	○
情報学群	社 会 工 学 類	3	1～3	○
	情 報 科 学 類	3	1～3	○
	情 報 メ デ ィ ア 創 成 学 類	2	1～2	○
医学群	知 識 情 報 ・ 図 書 館 学 類	2	1～2	○
	医 学 類	2	1～2	—
	看 護 学 類	2	1～2	—
体育専門学群	医 療 科 学 類	2	1～2	—
	体 育 専 門 学 群	—	—	—
芸 術 専 門 学 群		2	1～2	○

(備考) 1 体育の必修科目が、3単位以上の学類にあつては、3年次以降に通年実技又は集中実技を履修すること。

2 必修科目以外に学生の希望によって、自由科目の体育を履修することができます。(○は卒業要件の選択科目又は自由科目としても履修できることを示す。)

3 体育専門学群にあつては、専門科目又は専門基礎科目の履修により修得した単位をもって「体育」の履修に充てます。

(3) 履修方法及び注意事項

- ① 体育はそれぞれの履修年次に原則として、通年で1単位ずつ修得しなければなりません。ただし、当該年度に修得できなかった場合は、次年度以降において、合わせて履修（2単位以上）することになります。この場合は、当該年次対象に開設する必修科目から履修しなければなりません。
- ② 自由科目の体育を、必修科目の体育に替えることはできません。
- ③ 科目の選択は本人の希望を優先しますが、定員の関係で希望どおりの選択ができるとは限りません。科目の選択にあたっては、『開設授業科目一覧』及び体育センターHP掲載の共通体育シラバスを参照してください。
- ④ オリエンテーション及び履修申請
 体育の履修にあたっては、体育センターが行うオリエンテーション等で科目を決定します。オリエンテーションは、以下のとおり開設形態ごとに行います。

開設形態		オリエンテーションの実施		履修申請の期間等
必修科目	通年実技	基礎体育	平成29年度は各学群・学類実施のオリエンテーションにおいて「共通体育ガイダンス」として実施する。	全学の履修申請期間に準ずる
		応用体育 および 発展体育	実施しない (科目選択については別途指示します)	
	集中実技	授業実施時期の2～4週間前		オリエンテーション終了後 (別途指示します)
自由科目	通年実技	春学期授業開始第1週の授業の時限		
	集中実技	授業実施時期の2～4週間前		
	講義・演習	開設学期の授業開始第1週の授業の時限		

(注) 以下に該当する者は、履修申請期間中に体育センターに申し出て、定員に余裕のある科目の中から選択し、履修申請を行うこと。受付日時については、掲示で連絡します。

- ・オリエンテーション等（科目選択）に参加しなかった者

⑤ 秋学期入学者の履修

秋学期入学者は、1年次の秋学期に必修科目の通年実技（0.5単位）を履修し、加えて秋学期入学者対象必修科目の集中実技を履修して、合わせて1単位を修得しなければなりません。入学翌年度の春学期以降の履修は、他の学生と同様です。

⑥ トリム運動の履修

トリム運動は、疾病や傷害など、身体的条件によって実技に制限・配慮を必要とする学生が主な対象となります。

⑦ その他

科目によっては、参加費、教材費等を徴収することがあります。

3. 外国語

(1) 外国語の分類

外国語は、必修科目として「英語」、「初修外国語」、外国人留学生等のための「日本語」に区分されています。また、それ以外に各外国語において選択科目又は自由科目に対応する科目を開設しています。

区 分	履修上の区分	履修方法	履修年次	修得単位数	備 考
英語	基礎科目 (共通科目)	必修	1～2年次	4.5単位以上	
初修外国語	基礎科目 (共通科目)	必修	1～2年次	各学群・学類 で定める	英語及び日本語以外の外国語
日本語	基礎科目 (共通科目)	必修	1～2年次	各学群・学類 で定める	外国人留学生等
その他	基礎科目 (共通科目)	選択・自由	1～4年次 ※	各学群・学類 で定める	英語・初修外国語及び 日本語

(注) ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、朝鮮語の選択・自由科目については履修年次が2～4年次である。詳細については(7)に示す。また、外国人留学生等のための日本語についての履修方法等の詳細については(8)に示す。

(2) 外国語の開設

外国語は、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、朝鮮語、日本語を開設しており、英語及び日本語以外の外国語は、初修外国語として開設しています。

(3) 外国語（日本語を除く）の授業実施回数及び開設時期

外国語科目は0.5単位科目と1.0単位科目の2種類があります。0.5単位科目は、「English Critical Reading Strategies I」もしくは「ヨーロッパ文化圏の言語と文化 IA(ドイツ語)」という科目名のように、科目名の最後が「I」もしくは「A」になっています。一方、1.0単位科目は、「ドイツ語基礎 AII」又は「東アジア文化圏の言語と文化 IBC(中国語)」のように科目名が「II」、「BC」で終わっています。

原則、0.5単位科目は春学期 AB モジュールに開設され、1.0単位科目は、秋学期 ABC モジュールに開設されています。但し、専門英語基礎演習（2年次科目）は、各学期に0.5単位科目と1.0単位科目が併設されています。

単位数	科目名	授業回数	開設モジュール
0.5単位科目	「〇〇I」 例)「English Critical Reading Strategies I」 「〇〇A」 例)「ヨーロッパ文化圏の言語と文化 IA(ドイツ語)」	8回+試験	AB モジュール
1.0単位科目	「〇〇II」 例)「フランス語基礎 AII」 「〇〇BC」 例)「東アジア文化圏の言語と文化 IBC(中国語)」	15回+試験	ABC モジュール

AB モジュールに開設される0.5単位科目の外国語は、他学群・学類の AB モジュール開設科目の授業回数と異なります。詳細な授業実施期間は、グローバルコミュニケーション教育センターホームページに掲載される「外国語」学年暦で各自確認してください。

グローバルコミュニケーション教育センターホームページ：

<http://www.cegloc.tsukuba.ac.jp/> >> 外国語教育部門

(4) 履修の要件

「英語」及び「初修外国語」として履修すべき外国語及び単位数は、学群・学類ごとに次のように定められています。

学 群 ・ 学 類		英語 必修	初修外国語 必修
人文・文化学群	人 文 学 類	5.5※	4.5
	比 較 文 化 学 類	6.0	4.5
	日 本 語 ・ 日 本 文 化 学 類	4.5	4.5
社会・国際学群	社 会 学 類	4.5※	4.5
	国 際 総 合 学 類	4.5※	4.5
人 間 学 群	教 育 学 類	5.5	3.0
	心 理 学 類	5.5	3.0
	障 害 科 学 類	5.5	3.0
生命環境学群	生 物 学 類	4.5	—
	生 物 資 源 学 類	5.5	—
	地 球 学 類	5.5	—
理 工 学 群	数 学 類	4.5	
	物 理 学 類	5.5	—
	化 学 類	4.5	—
	応 用 理 工 学 類	5.5	—
	工 学 シ ス テ ム 学 類	5.5	—
	社 会 工 学 類	5.5	—
情 報 学 群	情 報 科 学 類	5.5	—
	情 報 メ デ ィ ア 創 成 学 類	5.5	—
	知 識 情 報 ・ 図 書 館 学 類	6.0	3.0
医 学 群	医 学 類	4.5	—
	看 護 学 類	6.0	—
	医 療 科 学 類	6.0	—
体育専門学群		4.5	—
芸術専門学群		4.5	—

- (備考) 1 ※は「第1外国語」として特定の言語を指定していない学類を示す。
 2 選択・自由科目の指定については各学群学類の定めによる。
 3 数学類は、「第1外国語」として英語又は初修外国語のどちらかで4.5単位を修得するものとする。
 4 人文学類において第1外国語又は第2外国語として「英語」を履修する場合の卒業に必要な単位数は、5.5単位となる。

(5) 「英語」の履修について

学術研究の出発点に立った大学生に求められる学術的教養及び学術的言語技能の涵養を目的としています。必修科目には以下の科目があります。

(ア) 1年次必修科目

- ・「English Critical Reading Strategies I」(1年次履修・学期完結型科目, 0.5単位, 略称 E1-I)
- 「English Critical Reading Strategies II」(1年次履修・学期完結型科目, 1.0単位, 略称 E1-II)
- ・「English Intercultural Communication I」(1年次履修・学期完結型科目, 0.5単位, 略称 E2-I)
- 「English Intercultural Communication II」(1年次科目・学期完結型科目, 1.0単位, 略称 E2-II)
- ・「English Integrated Skills I」(1年次履修・学期完結型科目, 0.5単位, 略称 E3-I)
- 「English Integrated Skills II」(1年次履修・学期完結型科目, 1.0単位, 略称 E3-II)

(イ) 2年次必修科目

・「専門英語基礎演習」(2年次履修・学期完結型科目, 0.5単位又は1.0単位, 略称 EAP)

*具体的な科目については①イ) に示す。

各学類・専門学群において履修すべき科目及び単位数は次のとおりです。

学 群 ・ 学 類		1 年次			2 年次
		E1	E2	E3	専門英語 基礎演習
人文・文化学群	人 文 学 類	1.5	1.5	1.5	1.0
	比 較 文 化 学 類	1.5	1.5	1.5	1.5
	日 本 語 ・ 日 本 文 化 学 類	1.5	1.5	1.5	*
社会・国際学群	社 会 学 類	1.5	1.5	1.5	*
	国 際 総 合 学 類	1.5	1.5	1.5	*
人 間 学 群	教 育 学 類	1.5	1.5	1.5	1.0
	心 理 学 類	1.5	1.5	1.5	1.0
	障 害 科 学 類	1.5	1.5	1.5	1.0
生命環境学群	生 物 学 類	1.5	1.5	1.5	*
	生 物 資 源 学 類	1.5	1.5	1.5	1.0
	地 球 学 類	1.5	1.5	1.5	1.0
理 工 学 群	数 学 類	1.5	1.5	1.5	*
	物 理 学 類	1.5	1.5	1.5	1.0
	化 学 類	1.5	1.5	1.5	*
	応 用 理 工 学 類	1.5	1.5	1.5	1.0
	工 学 シ ス テ ム 学 類	1.5	1.5	1.5	1.0
	社 会 工 学 類	1.5	1.5	1.5	1.0
情 報 学 群	情 報 科 学 類	1.5	1.5	1.5	1.0
	情 報 メ デ ィ ア 創 成 学 類	1.5	1.5	1.5	1.0
	知 識 情 報 ・ 図 書 館 学 類	1.5	1.5	1.5	1.5
医 学 群	医 学 類	1.5	1.5	1.5	*
	看 護 学 類	1.5	1.5	1.5	1.5
	医 療 科 学 類	1.5	1.5	1.5	1.5
体育専門学群		1.5	1.5	1.5	*
芸術専門学群		1.5	1.5	1.5	**

(備考) 1年次科目については、「〇〇Ⅰ」と「〇〇Ⅱ」で計1.5単位履修するものとする。

*は当該学類・専門学群開設の「専門英語基礎演習」に相当する科目を履修し、その単位をもって充てることを示す。また、**はグローバルコミュニケーション教育センター(外国語教育部門)開設の「専門英語基礎演習(1.0単位)」又は当該専門学群開設のこれに相当する科目を履修し、その単位をもって充てることを示す。なお、これらの学類・専門学群の開設する代替科目は次の表に示すとおりである。

学 群 ・ 学 類		代 替 科 目 名
人文・文化学群	日本語・日本文化学類	専門英語 I～II
社会・国際学群	社会学類	社会学外書講読 I
		社会学外書講読 II
		法律外書講読 I (英語)
		法律外書講読 II (英語)
		法律外書講読 III (英語)
		政治学外書講読 I (英語)
		政治学外書講読 II (英語)
		外国語経済書講読 I-1～I-3 (英語)
		外国語経済書講読 II-1～II-3 (英語)
		外国語経済書講読 III-1～III-3 (英語)
	外国語経済書講読 IV-1～IV-3 (英語)	
	国際総合学類	English Debate
English Discussion Seminar (A)～(F)		
生命環境学群	生物学類	専門語学 (英語) A I
		専門語学 (英語) A II
理工学群	数学類	数学外書輪講 I
		数学外書輪講 II
	化学類	基礎化学外書講読
		専門化学外書講読
医学群	医学類	Clinical Communication in English I
		Clinical Communication in English II
体育専門学群		体育・スポーツ専門英語基礎演習
芸術専門学群		英語基礎演習 A-1
		英語基礎演習 A-2
		英語基礎演習 B-1
		英語基礎演習 B-2
		英語基礎演習 C-1
		英語基礎演習 C-2

① 「英語」の履修上の注意事項

ア) 1年次必修科目のクラス編成

1年次必修の6科目については、入学時に実施するプレイスメントテストにより受講クラスが指定されます。指定クラス以外の履修は認めません。クラス編成の詳細については、年度始めに各支援室等に掲示します。再履修については、エ)「英語」の再履修について(34ページ)を要参照のこと。

イ) 「専門英語基礎演習」(2年次科目)について

「専門英語基礎演習」は、原則として、各学期に1科目のみ履修できます。例えば、1.0単位履修しなければならない場合は、0.5単位の科目を、学期を変えて2科目履修するか、1.0単位の科目を1科目履修してください。「専門英語基礎演習」では、抽選等による履修人数調整のため履修申請を2回行いますが、申請するに当たっては以下のことに注意してください。

- ・履修申請時に複数科目への申請が見られた場合は、全ての申請が取り消されます。特に第2回履修申請時に複数科目への申請が発覚した場合、当該学期の履修ができなくなります。
- ・第1回履修申請で履修が認められた場合、第2回履修申請で新たに別の科目を追加で履修申請することはできません。
- ・第1回履修申請で履修が認められた科目を取り消し、第2回履修申請で別科目を申請しなおすことはできません。第1回受講者調整で決定した科目を変更した場合、発覚次第、第1回受講者調整で決定した科目に履修データを戻します。

「専門英語基礎演習」として主に次のような科目が開設されます。

外国人教員担当科目	日本人教員担当科目	その他
English Presentation I	English Scientific Discourse I	English Testing I
English Presentation II	English Scientific Discourse II	English Testing II
English Writing I	English Media Studies I	English Translation I
English Writing II	English Media Studies II	English Translation II
English Debate I	English Reading I	
English Debate II	English Reading II	

なお、同名の科目を重複して履修することはできませんが、同名の科目でもⅠとⅡで区別されていれば、そのどちらも履修可能です。また、1年次履修の必修科目のようなⅠとⅡの連続性はありませんので、ⅠとⅡのどちらを先に履修しても構いません。例えば春学期に「English Testing II」を、秋学期に「English Testing I」を履修することも可能です。さらに、春学期に「Presentation I」を履修したからといって、秋学期に「Presentation II」を履修しなければならないということもありません。

「専門英語基礎演習」は、1年次履修の必修科目とは異なり、原則として固定時間割に縛られず自分の興味や時間割にあわせて学期ごとに自由に受講するクラスを選べます。ただし、多くのクラスで受講者数に上限が設けられており、抽選などで受講者数の調整が図られます。そのため、学期によっては履修できない場合があります。

なお、履修調整等により春又は秋学期での履修ができない場合は、春季休業中に実施される集中授業を履修することができます。

「専門英語基礎演習」は履修する学期の初めに通常とは異なる日程で履修申請をする必要があります。履修申請期間は各学期とも2回に分けて設定しています。詳細な日程については掲示及びグローバルコミュニケーション教育センターホームページで通知します。

ウ) 秋学期入学者について

秋学期入学者については、春学期分の履修に関して、春季休業中に開設される集中授業で充てることとなります。実施日程について、掲示で確認し必ず受講してください。

エ) 「英語」の再履修について

「English Critical Reading Strategies I」・「English Critical Reading Strategies II」、 「English Intercultural Communication I」・「English Intercultural Communication II」及び「English Integrated Skills I」・「English Integrated Skills II」の再履修を行う場合は、春 AB 及び秋 ABC 開設の再履修者クラス、もしくは夏季・春季休業中に実施される再履修者対象の集中授業を受講するものとします。集中授業の詳細については掲示で通知します。

「専門英語基礎演習」の再履修を行う場合は、イ)「専門英語基礎演習」(2年次科目)について(33ページ)の履修申請方法に基づき、春学期・秋学期の実施科目、又は春季休業中に実施される集中授業を申請してください。

(6) 初修外国語（英語及び日本語以外の外国語）の履修について

未知の外国語に挑むことで知的訓練を積み、文化的・社会的な多様性に対する認識を深め、複眼的な視点からの思考力を身につけるとともに、当該の外国語の実用的な運用能力を養うことを目的としています。

必修科目には以下の科目があります。

ア) 基礎的な科目

- ・「ドイツ語基礎 AI」（1年次履修・学期完結型科目，0.5単位）
- ・「ドイツ語基礎 AII」（1年次履修・学期完結型科目，1.0単位）
- ・「ドイツ語基礎 BI」（1年次履修・学期完結型科目，0.5単位）
- ・「ドイツ語基礎 BII」（1年次履修・学期完結型科目，1.0単位）

- ・「フランス語基礎 AI」（1年次履修・学期完結型科目，0.5単位）
- ・「フランス語基礎 AII」（1年次履修・学期完結型科目，1.0単位）
- ・「フランス語基礎 BI」（1年次履修・学期完結型科目，0.5単位）
- ・「フランス語基礎 BII」（1年次履修・学期完結型科目，1.0単位）

- ・「スペイン語基礎 AI」（1年次履修・学期完結型科目，0.5単位）
- ・「スペイン語基礎 AII」（1年次履修・学期完結型科目，1.0単位）
- ・「スペイン語基礎 BI」（1年次履修・学期完結型科目，0.5単位）
- ・「スペイン語基礎 BII」（1年次履修・学期完結型科目，1.0単位）

- ・「ロシア語基礎 AI」（1年次履修・学期完結型科目，0.5単位）
- ・「ロシア語基礎 AII」（1年次履修・学期完結型科目，1.0単位）
- ・「ロシア語基礎 BI」（1年次履修・学期完結型科目，0.5単位）
- ・「ロシア語基礎 BII」（1年次履修・学期完結型科目，1.0単位）

- ・「中国語基礎 AI」（1年次履修・学期完結型科目，0.5単位）
- ・「中国語基礎 AII」（1年次履修・学期完結型科目，1.0単位）
- ・「中国語基礎 BII」（1年次履修・学期完結型科目，0.5単位）
- ・「中国語基礎 BII」（1年次履修・学期完結型科目，1.0単位）

- ・「朝鮮語基礎 AI」（1年次履修・学期完結型科目，0.5単位）
- ・「朝鮮語基礎 AII」（1年次履修・学期完結型科目，1.0単位）
- ・「朝鮮語基礎 BI」（1年次履修・学期完結型科目，0.5単位）
- ・「朝鮮語基礎 BII」（1年次履修・学期完結型科目，1.0単位）

イ) 応用的な科目（2年次履修・学期完結型科目，0.5単位又は1.0単位）

- ・「ヨーロッパ文化圏の言語と文化ⅠA（ドイツ語）」
- ・「ヨーロッパ文化圏の言語と文化ⅠBC（ドイツ語）」
- ・「ヨーロッパ文化圏の言語と文化ⅡA（フランス語）」
- ・「ヨーロッパ文化圏の言語と文化ⅡBC（フランス語）」
- ・「ヨーロッパ文化圏の言語と文化ⅢA（スペイン語）」
- ・「ヨーロッパ文化圏の言語と文化ⅢBC（スペイン語）」
- ・「ヨーロッパ文化圏の言語と文化ⅣA（ロシア語）」

- ・「ヨーロッパ文化圏の言語と文化IVBC（ロシア語）」
- ・「東アジア文化圏の言語と文化IA（中国語）」
- ・「東アジア文化圏の言語と文化IBC（中国語）」
- ・「東アジア文化圏の言語と文化IIA（朝鮮語）」
- ・「東アジア文化圏の言語と文化IIBC（朝鮮語）」

各学類・専門学群において、第1外国語又は第2外国語として英語及び日本語以外の外国語（初修外国語）を選択した場合の履修すべき科目及び単位数は次のとおりです。

学 群 ・ 学 類		1年次	2年次
		「〇〇語基礎」I, II	「〇〇文化圏の言語と文化（〇〇語）」A, B, C
人文・文化学群	人 文 学 類	3.0	1.5
	比 較 文 化 学 類	3.0	1.5
	日 本 語 ・ 日 本 文 化 学 類	3.0	1.5
社会・国際学群	社 会 学 類	3.0	1.5
	国 際 総 合 学 類	3.0	1.5
人 間 学 群	教 育 学 類	3.0	—
	心 理 学 類	3.0	—
	障 害 科 学 類	3.0	—
生命環境学群	生 物 学 類	—	—
	生 物 資 源 学 類	—	—
	地 球 学 類	—	—
理 工 学 群	数 学 類	3.0	1.5
	物 理 学 類	—	—
	化 学 類	—	—
	応 用 理 工 学 類	—	—
	工 学 シ ス テ ム 学 類	—	—
	社 会 工 学 類	—	—
情 報 学 群	情 報 科 学 類	—	—
	情 報 メ デ ィ ア 創 成 学 類	—	—
	知 識 情 報 ・ 図 書 館 学 類	3.0	—
医 学 群	医 学 類	—	—
	看 護 学 類	—	—
	医 療 科 学 類	—	—
体育専門学群		—	—
芸術専門学群		—	—

- (備考) 1 人文学類，社会学類，国際総合学類における上表の数字は，第1外国語又は第2外国語として履修すべき科目及び単位数を示す。
- 2 比較文化学類，日本語・日本文化学類，教育学類，心理学類，障害科学類，知識情報・図書館学類における上表の数字は，第2外国語として履修すべき科目及び単位数を示す。
- 3 数学類における上表の数字は，第1外国語として履修する際の科目及び単位数を示す。

① 初修外国語（英語及び日本語以外の外国語）の履修上の注意事項

ア) 必修科目のうちの基礎的な科目の履修について

固定時間割で実施されます。原則として，自分が所属する学類・専門学群が対象となっているクラスを受講してください。所属する学類・専門学群向けのクラスが開設されていない場合は，全学群対象のクラス，または他学類・他学群のクラスを受講してください。但し人数によっては受講生の調整を行うことがあります。

初修外国語の基礎的な科目は，春学期に開講される「〇〇語基礎AI」，「〇〇語基礎BI」と秋学期から開始す

る「〇〇語基礎 AII」,「〇〇語基礎 BII」の4つの科目に分かれています。これらの科目は、同一言語の科目を履修するものとします。例えば、「ドイツ語基礎」AI,AII と「ドイツ語基礎」BI,BII の4科目を履修することはできませんが、「ドイツ語基礎」AI,AII と「フランス語基礎」BI,BII の4科目の履修をもって、計3.0単位必修の卒業要件を満たすことはできません。なお、特定のクラスで受講者が著しく多い場合は抽選などで人数制限を行い、履修する外国語の種類を変更してもらう場合もあります。また、ドイツ語、フランス語、スペイン語は春学期に「〇〇語基礎 AI」及び「〇〇語基礎 BI」の単位を修得できなかった（不合格の）場合は、当該年度の秋学期に開講される「〇〇語基礎 AII」,「〇〇語基礎 BII」の履修申請をすることができません。「〇〇語基礎 AI」と「〇〇語基礎 BI」のどちらか一方の単位が修得できなかった場合は、単位修得ができた科目のみ秋学期の履修申請ができます。不合格の科目は、翌年度春学期から履修申請してください。秋学期に「〇〇語基礎 AII」,「〇〇語基礎 BII」の単位を修得できなかった場合は、翌年度の秋学期に開講されるクラスで再履修してください。但し、ドイツ語及びフランス語については、春季休業中に実施する「〇〇語基礎」AI, AII と「〇〇語基礎」BI, BII の集中授業を再履修することもできます。集中授業の詳細は、後日掲示で案内します。

語学名	「〇〇語基礎」AI 又は BI の単位修得が出来なかった場合の秋学期履修申請可否
ドイツ語	×
フランス語	×
スペイン語	×
ロシア語	○
中国語	○
朝鮮語	○

イ) 必修科目のうちの応用的な科目の履修について

基礎的な科目で選択したものと同じ言語に関する科目を履修しなければなりません。

例えば、基礎的な科目では「ドイツ語基礎」を、応用的な科目では「ヨーロッパ文化圏の言語と文化Ⅱ（フランス語）」を選択するといったことは、原則として認められていません。また、学期完結型科目であり、固定時間割に縛られず学期ごとに自由に受講するクラスを選べますが、同一学期において「〇〇文化圏の言語と文化」の中から2科目以上を履修申請することはできません。例えば、以下のような例は、履修申請が無効となります。

- a 同一学期に「ヨーロッパ文化圏の言語と文化ⅢA（スペイン語）」と「ヨーロッパ文化圏の言語と文化ⅢA（スペイン語）」を履修申請
- b 同一学期に「ヨーロッパ文化圏の言語と文化Ⅲ（スペイン語）」と「東アジア文化圏の言語と文化Ⅰ（中国語）」を履修申請

但し、第1・2外国語が英語でない場合は、bのみグローバルコミュニケーション教育センター（外国語教育部門）への事前申請をもって履修申請を認めます。なお、受講者数の調整を図るため、通常とは異なる期間に履修申請をしてもらいます。詳細は毎学期掲示で通知します。

ウ) 秋学期入学者について

必修科目の基礎的な科目「〇〇語基礎 AI」及び「〇〇語基礎 BI」は、すべて春学期（春 AB）の0.5単位です。これに対し1.0単位の「〇〇語基礎 AII」及び「〇〇語基礎 BII」は、秋学期（秋 ABC）に開講します。ドイツ語の履修希望者は、入学当該年度の春季休業中に実施される「〇〇語基礎」AI, AII 及び「〇〇語基礎」BI, BII を履修してください。フランス語は「〇〇語基礎」AI, BI は秋学期に開設される秋学期入学生向け授業で、及び「〇〇語基礎」AII, BII は入学当該年度の春季休業中に実施される集中授業を履修して下さい。スペイン語、ロシア語、中国語、朝鮮語は、入学翌年度の春学期から履修をしてください。

注) ドイツ語は、秋学期（秋 ABC）月6、水6、木6にG30学生対象に開設される「German」AII, BII, CII の3科目の履修を履修することで「ドイツ語基礎」AI, AII および「ドイツ語基礎」BI, BII の計3.0単位に読み

替えることも出来ます。

エ) 初修外国語（英語及び日本語以外の外国語）の再履修について

受講を希望するクラスの担当教員に相談し、許可を得た上で、再履修をしてください。

但し、人数によっては受講生の調整を行うことがあります。

(7) その他（選択・自由科目）の履修について

英語及び初修外国語で1年次生以上（初修外国語の場合は2年次生以上）を対象とし、英語では各学期に個別なテーマを掲げた授業が開設されます。初修外国語では当該外国語の比較的高度な運用能力を養うことを目的とします。必修科目としては履修できません。開設科目例は次のとおりです。

① 「英語」選択・自由科目（1～4年次履修・学期完結型・0.5単位又は1.0単位）

- ・「English Pronunciation 1AI」, 「English Pronunciation 1BI」, 「English Pronunciation 1CI」
- ・「English Pronunciation 2AI」, 「English Pronunciation 2BI」, 「English Pronunciation 2CI」
- ・「English Pronunciation 3AI」, 「English Pronunciation 3BI」, 「English Pronunciation 3CI」
- ・「English Pronunciation 4AI」, 「English Pronunciation 4BI」, 「English Pronunciation 4CI」
- ・「English Grammar 1AI」, 「English Grammar 2AI」, 「English Grammar 3AI」, 「English Grammar 4AI」
- ・「English Communication 1AI」, 「English Communication 1BI」, 「English Communication 1CI」
- ・「English Communication 2AI」, 「English Communication 2BI」, 「English Communication 2CI」
- ・「English Communication 3AI」, 「English Communication 3BI」, 「English Communication 3CI」
- ・「English Communication 4AI」, 「English Communication 4BI」, 「English Communication 4CI」
- ・「English with Media Arts 1AI」, 「English with Media Arts 2AI」 「English with Media Arts 3AI」
「English with Media Arts 4AI」
- ・「Literature in English 1AI」, 「Literature in English 2AI」, 「Literature in English 3AI」
「Literature in English 4AI」
- ・「Intermediate English for General Academic Purposes 1AI」
「Intermediate English for General Academic Purposes 2AI」
「Intermediate English for General Academic Purposes 3AI」
「Intermediate English for General Academic Purposes 4AI」
- ・「Advanced English for General Academic Purposes 1AI」
「Advanced English for General Academic Purposes 2AI」
「Advanced English for General Academic Purposes 3AI」
「Advanced English for General Academic Purposes 4AI」
- ・「TOEFL Practice I」, 「TOEFL Practice II」, 「TOEFL Practice III」
- ・「TOEFL Academic English I」, 「TOEFL Academic English II」

② 「ドイツ語」選択・自由科目（2～4年次履修・学期完結型・0.5単位又は1.0単位）

- ・「応用ドイツ語講読 AI」, 「応用ドイツ語講読 AII」, 「応用ドイツ語講読 BI」, 「応用ドイツ語講読 BII」
 - ・「応用ドイツ語作文 AI」, 「応用ドイツ語作文 AII」, 「応用ドイツ語作文 BI」, 「応用ドイツ語作文 BII」
 - ・「応用ドイツ語会話 AI」, 「応用ドイツ語会話 AII」, 「応用ドイツ語会話 BI」, 「応用ドイツ語会話 BII」
- ※「応用ドイツ語会話」AI, AII 又は BI, BII は、同一年度にセット受講することを推奨します。

③ 「フランス語」選択自由科目（2～4年次履修・学期完結型・0.5単位又は1.0単位）

- ・「応用フランス語講読 AI」, 「応用フランス語講読 AII」, 「応用フランス語講読 BI」, 「応用フランス語講読 BII」

- ・「応用フランス語作文 AI」, 「応用フランス語作文 AII」, 「応用フランス語作文 BI」, 「応用フランス語作文 BII」
 - ・「応用フランス語会話 AI」, 「応用フランス語会話 AII」, 「応用フランス語会話 BI」, 「応用フランス語会話 BII」
- ※「応用フランス語〇〇」は AI, AII 又は BI, BII の両科目を同一年度にセット受講することを推奨します。

④ 「スペイン語」選択自由科目（2～4年次履修・学期完結型・0.5単位又は1.0単位）

- ・「応用スペイン語講読1AI」, 「応用スペイン語講読2AI」, 「応用スペイン語講読3AI」
「応用スペイン語講読1AII」, 「応用スペイン語講読2AII」, 「応用スペイン語講読3AII」
- ・「応用スペイン語作文1AI」, 「応用スペイン語作文2AI」, 「応用スペイン語作文3AI」
「応用スペイン語作文1AII」, 「応用スペイン語作文2AII」, 「応用スペイン語作文3AII」
- ・「応用スペイン語会話1AI」, 「応用スペイン語会話2AI」, 「応用スペイン語会話3AI」
「応用スペイン語会話1AII」, 「応用スペイン語会話2AII」, 「応用スペイン語会話3AII」

⑤ 「ロシア語」選択自由科目（2～4年次履修・学期完結型・0.5単位又は1.0単位）

- ・「応用ロシア語講読 I」, 「応用ロシア語講読 II」
- ・「応用ロシア語作文 I」, 「応用ロシア語作文 II」
- ・「応用ロシア語会話 I」, 「応用ロシア語会話 II」

※「応用ロシア語〇〇」は I 及び II の両科目を同一年度にセット受講することを推奨します。

⑥ 「中国語」選択自由科目（2～4年次履修・学期完結型・0.5単位又は1.0単位）

- ・「応用中国講読1AI」, 「応用中国講読2AI」, 「応用中国講読3AI」
「応用中国講読1AII」, 「応用中国講読2AII」, 「応用中国講読3AII」
「応用中国講読1BI」, 「応用中国講読2BI」, 「応用中国講読3BI」
「応用中国講読1BII」, 「応用中国講読2BII」, 「応用中国講読3BII」
- ・「応用中国作文1BI」, 「応用中国作文2BI」, 「応用中国作文3BI」
「応用中国作文1BII」, 「応用中国作文2BII」, 「応用中国作文3BII」
- ・「応用中国会話1BI」, 「応用中国会話2BI」, 「応用中国会話3BI」
「応用中国会話1BII」, 「応用中国会話2BII」, 「応用中国会話3BII」

※「応用中国語〇〇」は AI, AII 又は BI, BII の両科目を同一年度にセット受講することを推奨します。

⑦ 「朝鮮語」選択自由科目（2～4年次履修・学期完結型・0.5単位又は1.0単位）

- ・「応用朝鮮語講読 I」, 「応用朝鮮語講読 II」
- ・「応用朝鮮語会話 I」, 「応用朝鮮語会話 II」

ア) 選択・自由科目の履修上の注意事項について

英語以外の選択・自由科目を履修するには、当該言語に関する基礎的な科目のすべてが履修済みでなければなりません。例えば、原則として、基礎的な科目のうち「ドイツ語基礎 AI」と「ドイツ語基礎 AII」の2科目しか履修していない者が、「応用ドイツ語会話 AI」を履修することはできません。

(8) 日本語の履修について

日本語科目は、外国人留学生及び帰国生徒等（外国において相当の期間、中等教育を受けた学生）を受講対象として開設しており、1.0単位科目と0.5単位科目の2種類があります。日本語レベルは中級後半レベル以上になります。

各科目は、春学期及び秋学期ともに開設し、春学期の科目は「A」、秋学期の科目は「B」と区分しています。

① 開設科目

単位数	科目名		授業回数	開設モジュール
	春学期	秋学期		
1.0単位科目	日本語聴解ⅠA	日本語聴解ⅡB	15回+試験	ABCモジュール
	日本語作文ⅠA	日本語作文ⅡB		
	日本語読解ⅠA	日本語読解ⅡB		
	日本語演習ⅠA	日本語演習ⅡB		
0.5単位科目	日本語演習ⅢA	日本語演習ⅣB	8回+試験	Cモジュール

② 履修上の注意事項

- ・1.0単位科目及び0.5単位科目の中から必要単位数を履修してください。
- ・履修可能な学生は、外国人留学生及び帰国生徒等（外国において相当の期間、中等教育を受けた学生）です。
- ・帰国生徒で受講を希望する者は、受講前にグローバルコミュニケーション教育センター（日本語教育部門）の日本語担当教員の履修指導及びレベル判定テストにより許可を受けてください。
- ・卒業要件として使用できるか否かについては、必ず所属学群・学類の履修細則を確認し、所属学群・学類での履修指導を受けてください。

グローバルコミュニケーション教育センターホームページ：

<http://www.cegloc.tsukuba.ac.jp/> >> 日本語教育部門

③ Japan-Expert（学士）プログラム生の日本語の履修について

Japan-Expert（学士）プログラムに所属する学生は、グローバルコミュニケーション教育センターが開設する日本語科目15単位を履修する必要があります。各科目は、秋学期に開設しています。

科目名	単位数	開設モジュール
Japan-Expert 日本語話す	2.0単位	秋学期 ABCモジュール
Japan-Expert 日本語聞く	2.0単位	
Japan-Expert 日本語読む	3.0単位	
Japan-Expert 日本語書く	2.0単位	
Japan-Expert 日本語文法	2.0単位	
Japan-Expert 日本語漢字	2.0単位	
Japan-Expert 日本語総合日本語	1.0単位	
Japan-Expert 専門日本語 （各コース）	1.0単位	秋学期 ABCモジュール または秋学期 BCモジュール
	計15単位	

「Japan-Expert 専門日本語」以外の日本語科目については、入学後にレベル判定テストを行い、日本語能力に応じてクラス分けを行います。

「Japan-Expert 専門日本語」はコース別に開設していますので、自身の所属するコースの科目を履修してください。なお、当該科目は Japan-Expert（学士）プログラム生のみ履修可能です。

4. 情報

情報は、以下の科目から構成されます。

なお、実習は入室管理装置が設置されたサテライト（実習室）で行いますので、必ず学生証を持参してください。

(1) 「情報（講義・実習）」

① 「情報（講義・実習）」の構成と修得単位

「情報」2単位は、必修科目として講義1単位と実習1単位を修得しなければなりません。また、「情報」は1年次に履修することを原則とします。

なお、G30英語プログラムでの入学者を対象に英語で実施する科目を開設します。G30英語プログラム以外の学生は、原則この科目を履修できません。

□ 「情報」の構成及び修得単位数等

区分	授業科目名	単位数	修得単位数	科目番号	標準履修年次			
					1	2	3	4
情報	情報（講義）	1	2単位	6101101～	○			
	情報（実習）	1		6201103～	○			

（備考）理工学群社会工学類，情報学群情報科学類，情報メディア創成学類及び知識情報・図書館学類にあっては、専門科目又は専門基礎科目の履修により修得した単位をもって「情報」の履修に充てます。

② 履修すべき科目の指定

それぞれ履修すべき学群・学類，班又はクラスが指定されます。指定された班又はクラス以外での履修は原則として認められません。班又はクラスについては、Web 掲示板（TIPS）でお知らせします。

(2) 「情報（上級）」

① 「情報（上級）」の構成と修得単位数

情報（上級）では、全学群・学類を対象に、「情報」（講義・実習）に続く学習を目的として、特定のトピックに焦点を合わせた1単位科目を開設しています。

なお、当該科目を必修の「情報」に振替えることはできません。

② 履修の制限

実習室のコンピュータの台数の関係で、受講制限をします。受講制限の方法等については、Web 掲示板（TIPS）でお知らせします。

(3) 「情報」の卒業に必要な修得単位数

「情報（講義・実習）」及び「情報（上級）」の修得単位数は下表のとおりです。○は、「情報（上級）」を卒業要件の選択又は自由科目として履修できることを示す。

卒業要件として使用できるか否かについては、必ず各学群・学類の履修細則を確認すること。

科 目		講義・実習（必修）		上 級
学群・学類		標準履修年次	単位数	選択又は自由
人文・文化学群	人 文 学 類	1	2	○
	比 較 文 化 学 類	1	2	○
	日 本 語 ・ 日 本 文 化 学 類	1	2	○
社会・国際学群	社 会 学 類	1	2	○
	国 際 総 合 学 類	1	2	○
人間学群	教 育 学 類	1	2	○
	心 理 学 類	1	2	○
	障 害 科 学 類	1	2	○
生命環境学群	生 物 学 類	1	2	○
	生 物 資 源 学 類	1	2	○
	地 球 学 類	1	2	○
理工学群	数 学 類	1	2	○
	物 理 学 類	1	2	○
	化 学 類	1	2	○
	応 用 理 工 学 類	1	2	○
	工 学 シ ス テ ム 学 類	1	2	○
	社 会 工 学 類	—	※	○
情報学群	情 報 科 学 類	—	※	—
	情 報 メ デ ィ ア 創 成 学 類	—	※	○
	知 識 情 報 ・ 図 書 館 学 類	—	※	—
医学群	医 学 類	1	2	○
	看 護 学 類	1	2	○
	医 療 科 学 類	1	2	—
体 育 専 門 学 群	1	2	○	
芸 術 専 門 学 群	1	2	○	

※印は、専門基礎科目（社会工学類、情報メディア創成学類及び知識情報・図書館学類）又は専門科目（情報科学類）の履修により修得した単位をもって充てることを示す。

5. 国語

(1) 履修の目的

国際化社会における日本人の母語、「日本語」についての新たな自覚と認識を持たせるとともに日本語による表現能力を高めることを目的とします。また、レポート等を作成するための基本的な文章表現の理論と実際についても併せて指導します。

(2) 講義の内容

国語の内容を「国語Ⅰ」、「国語Ⅱ」及び「国語Ⅲ」に分け、「国語Ⅰ」では基礎的内容を、「国語Ⅱ」及び「国語Ⅲ」では「国語Ⅰ」の学習にもとづく応用・発展を内容として取り上げます。授業内容等の詳細は、『シラバス』を参照してください。

(3) 履修の方法

- ① 「国語Ⅰ」、「国語Ⅱ」及び「国語Ⅲ」の各科目は、必修科目とする学群・学類に対応して開設しています(表1)。受講は、対象学群・学類に対応する授業科目の受講を原則とします。対象学群・学類以外の授業科目を受講する場合は、あらかじめ担当教員の許可を得なければなりません。
また、特に学群・学類を指定しない「全学群対象」の授業科目も開設しています。
- ② 国語1単位の修得を必要とする学生は「国語Ⅰ」を、国語2単位の修得を必要とする学生は「国語Ⅰ」と「国語Ⅱ」を、国語3単位の修得を必要とする学生は「国語Ⅰ」と「国語Ⅱ」と「国語Ⅲ」を、それぞれ選択して履修しなければなりません。

(表1) 国語の履修年次と修得単位数

学 類	履修年次	修得単位数
人 文 学 類	1年次	必修3単位
比 較 文 化 学 類	1年次	必修2単位
生 物 資 源 学 類	1年次	必修1単位
医 学 類	1年次	必修1単位
看 護 学 類	1年次	必修1単位
医 療 科 学 類	1年次	必修1単位
体 育 専 門 学 群	1年次	必修2単位
その他の学群・学類	1年次	選択又は自由

注 修得単位数については、各学群・学類の履修細則を参照すること。

6. 芸術

(1) 開設趣旨

美を感じ、美を表現し、美を共有することは、すべての人が本来備えている素質であるが、受けた訓練や経験の違いによって、それぞれの水準や質が著しく異なることも知られている。芸術分野は国際的には大学におけるリベラル・アーツ教育の重要な要素とみなされてきたが、わが国の高等教育においては必ずしもその重要性が認識されてこなかった。芸術によって涵養されるバランス感覚や自己表現の能力は、これからの調和的発展を目指す持続可能な社会にとっては必要不可欠なものになりつつある。筑波大学は創設以来わが国を代表する芸術分野の部局を持ち、優れた専門家を輩出してきた。その伝統をさらに発展させて、筑波大学の学生が芸術学、美術、構成、デザインの全般にわたってすぐれた文化的営みを理解し鑑賞する力と、これらの営みに積極的に参加しようとする態度をはぐくむために、芸術科目として開講する。

(2) 授業の内容

芸術専門学群の教育組織に対応する、下記の4専攻、15のコース、領域、特別カリキュラムから、24の科目が開講されます。講義、演習、実習などからなります。

芸術学専攻

美術史コース

芸術支援コース

美術専攻

洋画コース

日本画コース

彫塑コース

書コース

特別カリキュラム・版画

構成専攻

総合造形領域

クラフト領域

構成領域

ビジュアルデザイン領域

デザイン専攻

情報デザイン領域

プロダクトデザイン領域

環境デザイン領域

建築デザイン領域

(3) 履修上の注意事項

- ① 演習、実習科目などについては、教育の充実を図るために受講者数の上限が定められています。履修申請者数が受入上限数を超過した場合には受講者の調整が行われますので注意してください。
- ② 実習科目などについては、履修に際して保険の加入を義務付けることがあります。